

ある晴れた日に――

伝説の舞台 この感動は永遠

〔再演出〕

〔原演出〕

〔指揮〕

〔台本〕

〔音楽〕

飯塚 励生
栗山 昌良

佐渡 裕

ジャコモ・プッチーニ
ルイージ・イッリカ・ジュゼッペ・ジャコーザ

佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2024
プッチーニ 没後100年 / 初演120周年

歌劇

蝶々夫人

Giacomo Puccini *Madama Butterfly*

全3幕 / イタリア語上演・日本語字幕付 / 改訂新制作

全8公演
2024

7.12 (金) 13 (土) 14 (日) 15 (月・祝) 17 (水) 18 (木) 20 (土) 21 (日)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

各日 2:00 PM 開演 (1:15 PM 開場)
上演時間: 約2時間55分予定 (休憩1回含む)



兵庫県立
芸術文化センター

芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 (10:00AM~5:00PM 月曜休※祝日の場合翌日)

<https://www.gcenter-hyogo.jp> 主催/兵庫県、兵庫県立芸術文化センター(制作)

世界に誇る日本の美
決定版“といふべき栗山演出

比類ない甘美な音楽で120年にわたり世界中で愛される「蝶々夫人」。

2006年の兵庫初演、2008年の再演で演出を手がけたのは、日本のオペラ演出の第一人者であった故栗山昌良氏（1926-2023）です。半世紀にわたり数多の「蝶々夫人」を演出してきた栗山氏が、18年前の兵庫版初演を前に語ったのは「プッチーニの意図を十分に尊重したうえで、余分なものをそぎおとしたスタイリッシュな『蝶々夫人』にしたい」ということ。音楽に忠実に、登場人物たちのドラマを丁寧に描き出し、感動の渦を呼びました。

それは日本人の心に深く響くと同時に、世界に向けても誇れる「蝶々夫人」決定版といえる演出。今回は、初演時に演出補を務め、様々な舞台の演出で手腕が高く評価される飯塚励生氏が“伝説の舞台”を鮮やかに蘇らせませす。



STAFF 【指揮】 佐渡 裕 Yutaka SADO
【原演出】 栗山昌良 Masayoshi KURIYAMA
【再演出】 飯塚励生 Leo IIZUKA
【装置】 石黒紀夫 Norio ISHIGURO
【照明】 沢田祐二 Yuji SAWADA
【衣裳】 緒方規矩子 Kikuko OGATA
【振付・所作】 飛鳥左近 Sakon ASUKA
【合唱指揮】 矢澤定明 Sadaaki YAZAWA
【舞台監督】 幸泉浩司 Hiroshi KOIZUMI
【舞台設計】 荒田 良 Ryo ARATA
【衣裳コーディネート】 林 なつ子 Natsuko HAYASHI 小栗葉代子 Nayoko OGURI
【演出助手】 橋詰陽子 Yoko HASHIZUME
【プロデューサー】 小栗哲家 Tetsuya OGURI

【制作】 兵庫県立芸術文化センター
production by Hyogo Performing Arts Center

歌劇 蝶々夫人

Giacomo Puccini Madama Butterfly



評判の高さに、2008年春には7回公演を再演。
そして2024年、プロデュースオペラの原点に回帰する、
しかし18年を経た今だからこそ上演できる
改訂新制作版「蝶々夫人」の幕が上がります！

2005年10月に開館した兵庫県立芸術文化センター、
最初の夏のプロデュースオペラが、2006年7月の「蝶々夫人」です。
遡ること開館前、佐渡裕芸術監督がプロデュースオペラの
上演を構想する中で、“夏のオペラ”の船出に相応しい名作を、
それも自身が若き日より薫陶を受けた演出家・栗山昌良氏の
演出で上演したい、という強い思い入れを持って
計画されたのが本作でした。

当時、日本のオペラ界の常識を覆すと話題になった合計8回の
公演は連日喝采に沸き、熱気ある“夏のオペラ”が誕生したのです。



2006年「蝶々夫人」
千穂楽カーテンコールより

充実のキャストが、
あなたの涙を誘う

CAST

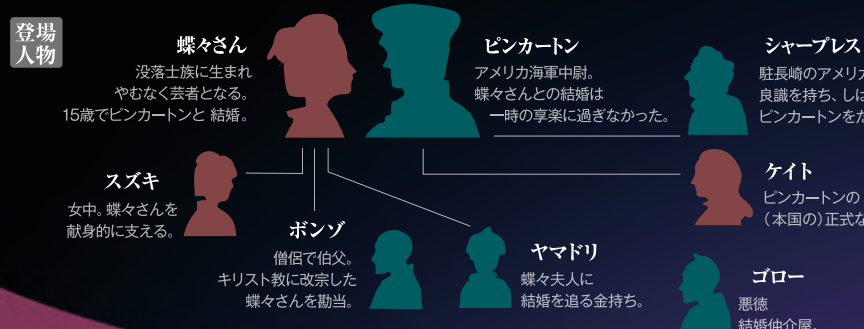
7 12, 14, 17, 20	 蝶々さん 高野百合絵 Cio-Cio-San Yurie TAKANO	 スズキ 清水華澄 Suzuki Kasumi SHIMIZU	 B.F.ピンカートン 笛田博昭 B.F. Pinkerton Hiroaki FUEDA	 シャープレス 高田智宏 Sharpless Tomohiro TAKADA	 ゴロー 高橋 淳 Goro Jun TAKAHASHI	 ヤマドリ 町 英和 Yamadori Hidekazu MACHI	 ボンゾ 伊藤貴之 Bonzo Takayuki ITO	 役人 湯浅貴斗 The Imperial Commissioner Takuto YUASA
	 【合唱】 ひょうごプロデュースオペラ合唱団 The Produce Opera Chorus, Hyogo 【管弦楽】 兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra ゲスト・コンサートマスター：ステファノ・ヴァニヤレッリ Stefano VAGNARELLI, guest concertmaster							

ピンカートンには、欧州の名門歌劇場で出演を重ねる
ノーマン・レインハートと日本が誇るプリモ・テノールで
2022年「ラ・ボエーム」でも好演した**笛田博昭**、スズキに
は共に過去のプロデュースオペラで大きな存在感を示
したメゾソプラノの**林美智子**と**清水華澄**、そして領事

シャープレスにメトロポリタン歌劇場など米国を中心に
活躍する**エドワード・パークス**とドイツ宮廷歌手の称号
を持ち現地で活躍する**高田智宏**を配役。そのほかにも
日本を代表する歌手が揃い、2024年の「蝶々夫人」に
臨みます。

愛を信じ、名誉に生きた
蝶々さんの物語

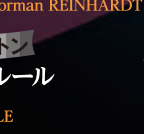
STORY 舞台は明治時代（19世紀末頃）の長崎。没落士族の娘・蝶々さんは15歳でアメリカ海軍
士官のピンカートンと結婚。一途に夫を愛する蝶々さんに対し、ピンカートンにとっては金で
買った戯れの結婚であり、彼は「コマドリが巣を作る頃には戻る」と言い残して帰国する。
それから3年。ピンカートンとの子を育てながら、蝶々さんは夫の帰りを待ち続けた。そんな
折、港に軍艦が着き、期待に胸を躍らせる蝶々さん。しかし彼女は過酷な事実を知らされる…。



初演から120年、誰もが夢中！ 「蝶々夫人」の音楽



- 作曲は「ラ・ボエーム」や
「トスカ」などの名作を遺した
ブッチーニ！2024年、没後100年となる。
- 小説としてアメリカで発表された原作が
1900年に戯曲化。その舞台上演を観た
ブッチーニが感動のあまり自らオペラ化
を計画！初演は1904年2月17日ミラノ・
スカラ座。
- 当時はジャポニズム・ブーム！ブッチーニも
日本の文化に関心を持ち、“さくらさくら”
“お江戸日本橋”など実際に日本のメロ
ディを転用している。
- “ある晴れた日に”、“愛の二重唱”、“花の
二重唱”ほか、名曲がひしめく本作品。
ドラマティックな音楽はフィギュアスケ
ートの勝負曲にも！

 蝶々さん 迫田美帆 Cio-Cio-San Miho SAKODA	 スズキ 林 美智子 Suzuki Michiko HAYASHI	 B.F.ピンカートン ノーマン・ レインハート B.F. Pinkerton Norman REINHARDT	 シャープレス エドワード・ パークス Sharpless Edward PARKS	 ゴロー 清原邦仁 Goro Kunihito KIYOHARA	 ヤマドリ 晴 雅彦 Yamadori Masahiko HARE	 ボンゾ 斉木健詞 Bonzo Kenji SAIKI	 役人 的場正剛 The Imperial Commissioner Masataka MATOBA
 ケイト・ピンカートン キャロリン・スプルール Kate Pinkerton Carolyn SPROULE	 ヤクシデ 西村明浩 Yakusidé Akihiro NISHIMURA	 書記官 時宗 務 The Official Registrar Tsutomu TOKIMUNE	 蝶々さんの母 森 千夏 Cio-Cio-san's mother Chinatsu MORI	 叔母 梨谷桃子 The aunt Momoko NASHITANI	 従妹 南 さゆり The cousin Sayuri MINAMI		

難役と言われるヒロイン蝶々さんをダブルキャストで
務めるのは、共にいま勢いに乗る若きスター・ソプラノ。
迫田美帆は2019年の藤原歌劇団デビュー公演で蝶々
さん役に抜擢された逸材。その後も同団の公演を中心
に主要な役での出演が続く注目歌手が、当センター初

出演です！そして2021年のプロデュースオペラ「メリー・
ウィドウ」で鮮烈な初登場を果たし、2023年「ドン・ジョ
ヴァンニ」でも好評を得て着実に活躍の幅を広げる
高野百合絵が本役初挑戦。期待が高まります！

Yutaka Sado, Artistic Director

Music by Giacomo Puccini Libretto by Luigi Illica and Giuseppe Giacosa

以降、多彩なオペラをとり上げてきましたが、「蝶々夫人」は再び上演したいという思いがありました。実は、センター開館20周年となる2025年を想定していましたが、先生のお歳を考へて1年繰り上げて準備をしていたのです。再び一緒に仕事をするのは叶いませんでしたが、先生に教えていただいた“オペラとはどういうものか”ということ胸に、これまでに何度もチームを組んできた演出家の飯塚励生さん、素晴らしい歌手達と共にこの作品に臨めることを本当に嬉しく思います。一音一音に私の深い思いが詰まったこの「蝶々夫人」、ぜひご覧ください。

A photograph showing three men seated in the foreground of a large, empty auditorium. The man on the left is wearing a white short-sleeved shirt and dark trousers, looking towards the other two men. The man in the middle is wearing a dark polo shirt and dark trousers, looking towards the man on the right. The man on the right is wearing a light-colored polo shirt and dark trousers, looking back towards the man in the middle. They appear to be in a conversation. The background shows rows of empty wooden chairs with black seats, receding into the distance. The walls of the auditorium are a warm, reddish-brown color.

2006年「蝶々夫人」リハーサル中

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札ロースグ／JR西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分） **A13,000円 B10,000円 C8,000円 D6,000円 E3,000円** 消費税込 全席指定